

「インダストリ」特集号発刊にあたって

— Publication of Special Issue on Industry-Related Products —



常務取締役
赤羽 仁 史
H. AKAHANE

日頃当社製品をご愛顧いただいておりますことに対しまして厚く御礼申し上げます。

当社は自動車関連分野と自動車以外の一般産業分野に対し、広範囲な製品を提供させていただいておりますが、今回、「インダストリ」特集号として、工作機械、メカトロニクス製品、および、産業機器用軸受などを対象とした内容で特集号を発行するにあたり、以下にこれらにおける取組みのコンセプトをご紹介させていただきたいと思えます。

2007年度、当社は「量から質への転換」を会社方針として掲げ、「品質の確かな商品や行き届いたサービスを通じてお客様に高い満足をご提供できる企業」を追求しております。

まず、工作機械・メカトロニクス製品分野では

「品質と技術で業界をリードし続け、モノづくり改革に寄与する」

「最新技術と最高品質の生産システムを提供し続け、No. 1 技術を備えたシステムサプライヤーを目指す」ことを目標に取り組んでおります。

現在、工作機械業界では「シンプル・スリム・コンパクト」な設備に対するご要望がますます強くなってきております。

当社はここ数年の開発を通じて、これらの実現を目指して、いわゆる「7つのムダ」

- ①作過ぎのムダ ②手待ちのムダ ③運搬のムダ
- ④加工のムダ ⑤在庫のムダ ⑥動作のムダ
- ⑦不良を作るムダ

を徹底的に排除する思想を織り込んで商品開発を行っております。

さらに、製品開発では「モジュール化」「レファレンス化」「標準化」を強力に推し進めており、お客様にとっては品質が良く安心して使いやすい製品であり、当社にとっても作りやすく、更なるモノづくりの改革につながる製品を目指した取組みを推進しております。

また、上記に加えて「安全・安心・環境」に対応するために当社が永年にわたって開発を行ってきた各種技術（たとえば、エコロジークーラント供給技術・安全PLC・見える化を目指したVMS技術など）を各種製品に織り込み、お客様にとって快適な商品の提供も引き続き推進してまいります。

工作機械・メカトロニクス事業本部では以上の考え方に基づいて、2005年からの3カ年計画で、研削盤・専用機・マシニングセンタ・メカトロニクス商品で最新技術を採用し、より高い品質を実現した新商品開発やモデルチェンジを進め、品揃えの充実を図ってきております。

本年度に関しても、各分野にわたって、多くの新商品の開発を進めており、本年も12月に当社の刈谷工場内カスタマーセンターでJTF2007（JTEKT TECHNICAL FAIR 2007）を開催いたします。

このカスタマーセンターのコンセプトはお客様に「来て・見て・触って」いただくことで当社および当社製品をご理解いただくことを考えておりますので、JTF2007に是非ともお越しただいて、当社製品群と取組みに関してご評価をお聞かせいただければ、幸甚に存じます。

次に産業機器用に使用される転がり軸受の使用領域は非常に広く、またさまざまな環境で使用されます。当社は、「環境」、「生産性向上」および「安全・メンテナン

ス性向上」の3つの基本命題のもとで製品開発活動を進めております。

まず、「環境」においては、当社では軸受の高効率化に長年にわたり取り組んでおり、回転時のトルクを大幅に抑制する世界トップレベルの軸受の開発を進めております。また、地球温暖化防止に貢献する自然エネルギーを利用する風力発電機用には当社の軸受が多数採用されており、更なる発電効率の向上のために、超大型軸受のコンパクト化を進めております。

次に、「生産性向上」においては、お客様が使用される機器および設備の高速化、高効率化、高精度化へのご要望にこたえるための開発を進めております。特に「高剛性」と「高速性」を両立するハイアビリー軸受は、低速領域における重切削から高速領域における軽切削に対応するマシニングセンタの主軸に採用され、工作機械の加工効率の向上に貢献しております。

最後に、「安全・メンテナンス性向上」においては、生産設備のメンテナンスフリーに貢献する製品開発を進めております。特にメンテナンスが生産に及ぼす影響の大きい鉄鋼生産設備では、過酷な使用条件と環境に耐える信頼性の高い製品の開発ならびに自己診断機能付き製品の開発を進めております。

さらに当社では、摩擦・摩耗・潤滑を扱う最先端のトライボロジー技術をさらに深耕し、真空、クリーン、高温および腐食などの特殊環境で使用できる各種仕様のEXSEV[®]軸受を開発して、最先端の技術分野に貢献しております。

さて、JTEKTも発足して2年目になりましたが、各事業本部間や関連会社とのシナジーを積極的に推進して製品開発に反映させ、お客様により一層感動していただける商品の提供を継続していきたいと考えております。